

元気に入学、うれしい春到来



町内の小、中学校で150人の新1年生が誕生しました。

4月6日、東川小学校(村田俊昭校長)では前年より7人多い62人の1年生が期待を胸にうれしい第一歩を踏み出しました。

村田校長は「かしこく、やさしく、

たくましく頑張ってください」と迎え先輩の2年生、加藤悠月さんが「これからみんなで楽しく学校生活をしましょう」と歓迎しました。



同日、東川中学校(森雅則校長)には70人が入学しました。

体育館には、真新しい木の椅子が新しい主を待っていました。森校長は「去年から教室の机、椅子が木製にな

りました。心と体の居場所として大切に使ってほしい」と新入生を迎えました。

◇ 幼児センター(伊藤和代園長)は4月7日に入園式を行いました。

新しくお友だちに加わったのは、零歳から2歳児まで44人。合わせて5歳児まで235人のお友だちが一緒に遊びます。

「保母さんになりたい」。震災被災の学生が福祉専門学校に

東日本大震災の被災を乗り越え、この春から気仙沼市出身の学生が北工学園旭川福祉専門学校保育科に入学しました。入学式から少し遅れて到着して女子



すべてを失い、一時入学を断念しました。しかし町と専門学校側の配慮で、入学金、学費、諸経費、寮費を全額免除。担当教員、同校職員の協力で家財道具、衣類など生活物資もすべてそろえることができ、夢に向かって新たな一歩を踏み出しています。

中心市街地が一足早く春の装い

4月16日、町内中心部の道道旭川旭岳温泉線(基線道路)が花壇の整備で一足早く色鮮やかな春の装いに衣替えしました。

南町1丁目女性部サークル「親悠会」

の皆さん7人を中心に、市街地の住民有志約20人が作業しました。

パンジーで一足早い春満開になったのは、役場前道路の道道(西4号道路)との交差点ブロック大花壇と樽型花壇

まだ新緑に早い時期、色鮮やかに満開の花を咲かせているパンジーが花壇によみがえりました。花壇はこの後、6月に中央自治振興会と花俱樂部の皆さんが季節の花々を植える予定です。



シー・マン・フロントクラブがプロバスケットボールチーム

4月6日、プロバスケットボールチーム、旧レラカムイ北海道のヘッドコーチ、ジョー・フライアント氏が東川町に初来町し、東川小で約2時間にわたってバスケットボールの練習の基本を指導しました。



「東川ミニバスケットボール少年団」、東川中バスケットボールクラブ生徒、旭川市立陵雲小のミニバスケットボールクラブ「陵雲シーガル」のメンバー合わせて約40人が集まりました。

2層7坪という長身の巨体が体育館に現れると、あまりの迫力に「コワイ」と最初逃げ腰の児童も。でも「ジェリー・ビーン」の愛称で親しまれた笑顔にすぐ打ち解けました。

ディフェンスの基本となるホップフット習得、パス回しの練習、紅白に分かれてのミニ試合などを指導しました。名プレーヤーとして活躍した当時を思い返せるタンクシユートの妙技に「おおうっ」と感嘆の声が上がりました。

昨シーズン終盤にチームの経営主体、チーム名が変わったため解雇になり、2011年シーズンは、9月まで米田プロバスケットWNBA所属のチームアシスタント・コーチ(ロサンゼルス)に就任。その後再来道して(株)ファンタジアエンタテインメント(札幌)

水澤佳寿子社長)のバスケットトレイニングクリニックで子供たちを指導するということです。

無事故の願い新た、交通安全祈願

4月4日、町交通安全協会(藤田裕三会長)は東川神社前の交通安全の碑前で春の交通安全祈願祭を行い、1年の交通無事故を祈願しました。

町内の会社、事業所、ライオンズクラブ会員、交通安全指導員ら関係者約80人が参加しました。

町内では3年連続で交通死亡事故が起きていません。松岡市郎町長は「地震

東川町文化賞に桂書会が受賞

22年度の東川町文化賞に桂書会(金野照雄会長)が受賞し、3月28日農村環境改善センターで授賞式を行いました。

1990(平成2)年農村環境改善センターで活動をスタート。西部、第一、第二、第三各地区にそれぞれ活動を広げて月例教室を中心に活動しています。北海道書道協会に所属、東川支部として今年で22年目を迎えました。



日々研さんしている会員皆さんの作品は、各種

津波は天災で避けることができないが、交通事故は人災で避けることができる。家庭から、職場から、学校から一人ひとりが交通ルールをしっかり守ることが大切」と改めて無事故への取り組みを呼びかけました。

